

身体障害者のための衣服：ミネソタ大学家政学部 における身体障害者のための衣服研修より

著者	石垣 和子
雑誌名	北海道女子短期大学研究紀要
巻	25
ページ	15-24
発行年	1990
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00001649/

身体障害者のための衣服

—— ミネソタ大学家政学部における身体障害者のための衣服研修より ——

Clothing for People With Physical Handicaps

16th World Congress of International

Federation for Home Economics, 1988

—— Home Economics Department, University of Minnesota, U. S. A. ——

石 垣 和 子

Kazuko ISHIGAKI

I は じ め に

1988年7月、国際家政学会第16回の世界会議がアメリカ合衆国、ミネソタ州立大学のキャンパスを中心に開催された。期間中に行なわれたプログラムの中に、ミネソタ大学家政学部において、身体障害者のための衣服研修が含まれており、その研修に参加する機会を得た。

ミネソタ大学家政学部には、Extension, Home, Economics 情報センターが設置されており、そこで被服、住居、食物、家族関係など、家政学に関して、地域の Home, Economist や市民から寄せられた多くの質問に対して、調査、研究がすすめられている。大学の中に身障者のための、積極的な相談の場が開放されている事に、非常に興味をもった筆者は、その研修時の資料と、その他の参考文献にもとづき、障害者のための衣服を紹介し、この分野の出版及び研究の少ない我が国の現状を見直す契機になる事を願って報告する。

なお、衣服研修の資料の中からcocoon^{コクーン}（防寒用足入れつきひざかけ）の試作を行ったので報告する。

II 札幌市における特殊衣料の現状

1) 現在、衣生活はファッション化され、特に若い世代や中年層の衣服に関しては、服の種類やデザインは、非常に豊富に出回っている。

衣服の売り場では、常に新しい商品であふれ、自分の好みや生活行動に合わせて、簡単に入手する事ができる。しかし一方では、高齢者向けや肢体機能に障害をもつ人達の衣服については、ほとんど配慮されていないのが、現状ではないだろうか。高齢者の衣服は以前に比較すると、多少改良されているようであるが、障害者向けの衣服は、健常者のものをそのまま着用させたり、その障害の程度にもよるが一部を手直しするくらいで、筆者の調査した範囲によると、これ等の衣服を扱っている札幌市内の特殊衣料や医療介護用品の販売店は、わずか数ヶ所にす

ぎず、商品も在宅介護や療養に役立つ補助器具がおもで衣料では、ねまき（パジャマ）食事用エプロン、すべり止め靴下、ベスト、下着などの数種類をかぞえる程度で、その販売状況はごく限られた範囲である事がわかった。販売店の中には、身障者の障害の程度や希望に応じて、注文服を受注²⁾している店もあったが、この場合、コストが高かつき、商業ベースにはのらないため、特定の場合を除いてはむづかしい状況であるという。

2) 札幌市における身体に障害をもつ人の現状は、札幌市民約165万人のうち22人に1人がなんらかの障害をもっている事が、札幌市民生局福祉部障害福祉課の調査によってわかる。

平成2年3月31日現在、障害者は46,433人でその内訳は、肢体不自由者が28,533人、聴覚平衡障害者が5,269人、内部失患障害者7,318人、視覚障害者4,916人、音声言語機能障害者397人である。

この平成2年3月の障害者の数は、平成元年3月の44,822人に比較すると、3.6%の増加を示しており、今後、札幌市だけに限らず、全国的にみても高齢化社会が進むにつれて、その数も増加の一途をたどるものと推測される。

Ⅲ 身体障害者のための衣服形態

上記で述べたミネソタ大学家政学部の情報センターにはこの家政学部の卒業生が指導に当たっており、当時の研修の内容は、スライドによる障害者（主に肢体不自由者）の衣服の紹介と、実物資料を公開して、縫製、着用する方法など、細部に亘って説明があったが、いづれの衣服も実にファッショナブルであり、外観は普通の衣服と変らない健常者のものと同じ扱いで、機能面は勿論のこと、着用者の満足感をみたす事を、第一に考慮して製作されたものという印象がつかった。

次にその例を、図及び参考文献³⁾の写真を含めて紹介する。

1) 創意工夫を生かした衣服群

写真1 食事用エプロン

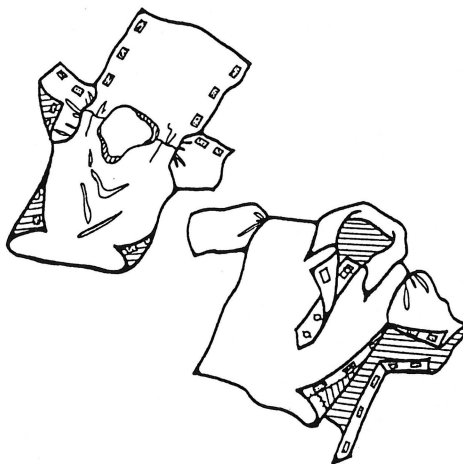
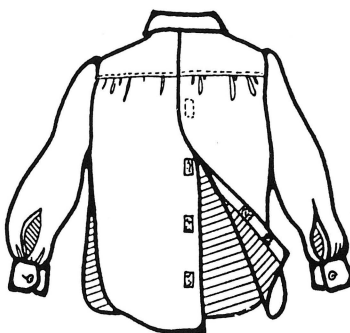
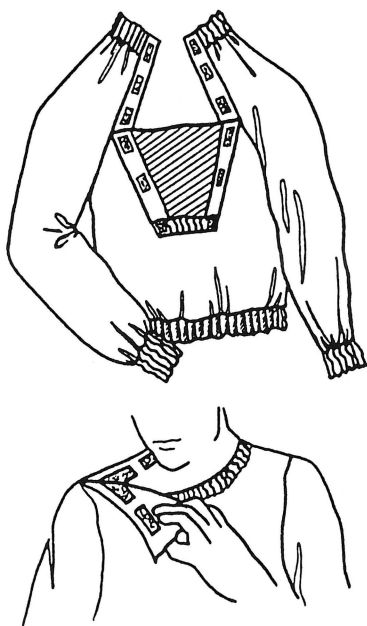
写真1は、食事用エプロンで、幼児のよだれかけ風の前かけを、同じパターンで、布地をかけて数枚作り、食事中汚れると、前立と肩の部分の釦またはマジックテープをはずして、新しいものと取り替えて使用させる。機能と美的感覚を兼ねたアイディアのエプロンである。

写真2は、ウエストから腰にかけて「マチ」の入った車椅子を使用する人のスラックスである。「マチ」の部分は伸縮性のあるニット風の素材を使い、ゆとりを出してある。

図1・2は、マジックテープ使用のブラウ



写真2 車椅子用スラックス

図1 マジックテープ使用のブラウス
(袖下、脇、前立)図2 マジックテープ使用のブラウス
(後中央)図3 マジックテープ使用のブラウス
(ラグラン線、肩)

スで腕の動きの不自由な人にとって、平らに開けられ、着脱が便利である。マジックテープをベルコ（velcro）と呼称して、あらゆる箇所に利用している。手先に麻痺が残っている人には、釦やスナップより止め易い利点がある。

図3は、ラグラン・スリーブの縫目や肩にベルコを利用したブラウス。

写真3、腕の動きの不自由な人にジャケットの袖全体、または衿ぐりから袖口までファスナーをつける。

デザインは、ラグランやキモノスリーブの場合の方が簡単につけられる。その場合ファスナーの先に、ひき紐やくさり、リング等をつけると、つまみ易く、開閉が容易にできる。（写真4）

写真3 肩、袖山の縫目にファスナーをつけてある

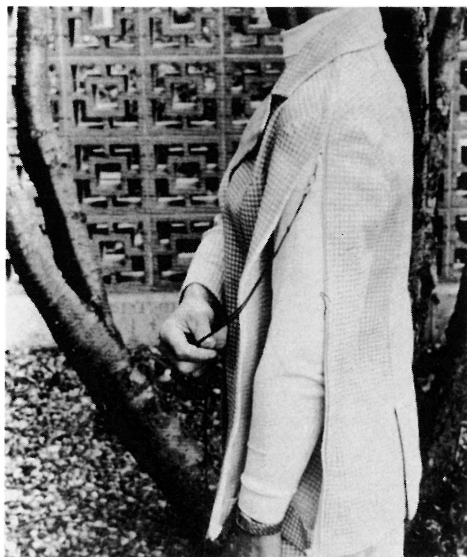


写真4 ファスナーの先に大き目のリングをつける。

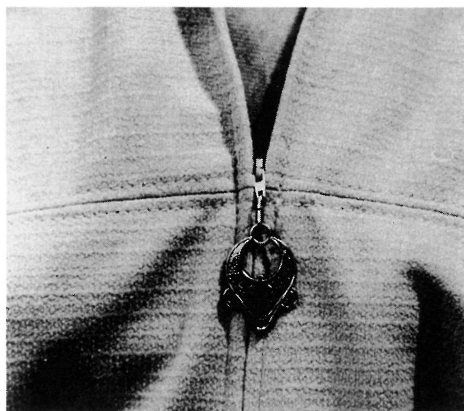


図4 ファスナー使用のジャケット
(袖下、脇)

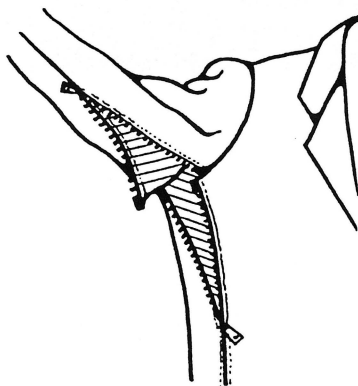


図4は、ジャケットの袖下、脇線に全開ファスナーをほどこしたもので、写真3と同じく腕に障害のある人向きである。コートの場合にも利用できる。

図5、スラックスの外側の縫目に沿ってファスナーをつけると、図6のように、脚に矯正の補装具がつけてあっても、裾が広がるため簡単にはく事ができる。

写真5は、スラックスの内側の縫目部分にファスナーをつけると、収尿器などの器具を使用している人に便利である。また、写真6のように、スラックスの脇の縫目をファスナー明きにすると、ギブスや補装器をつけている人でも、スムーズに着脱できる。

図5 裾の部分にファスナーをつけたスラックス

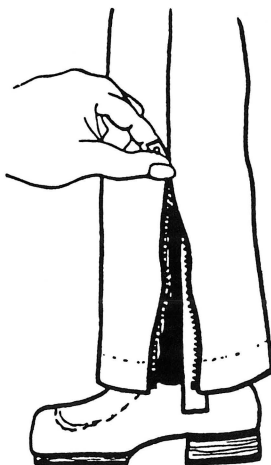


図6 補装具をつけた脚

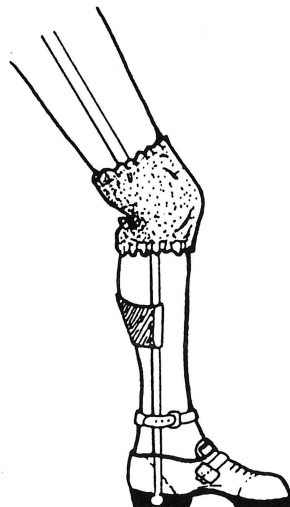


図7、スラックス両脇の縫目を脇丈約25～28センチメートル位を明きにして、前後の

写真5 スラックスの内側の縫目にファスナーをつける。

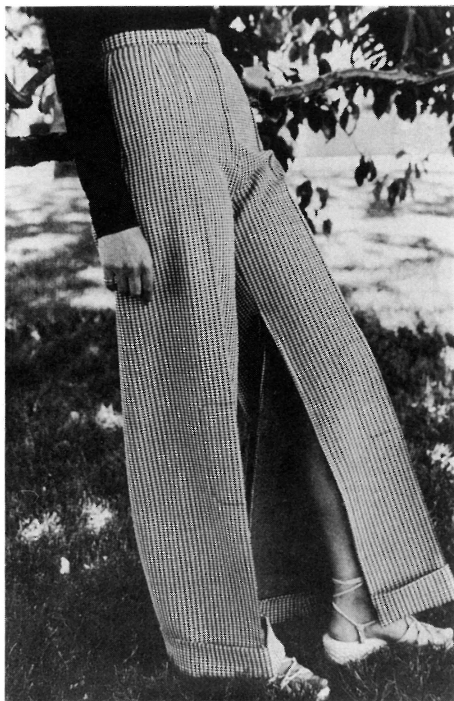
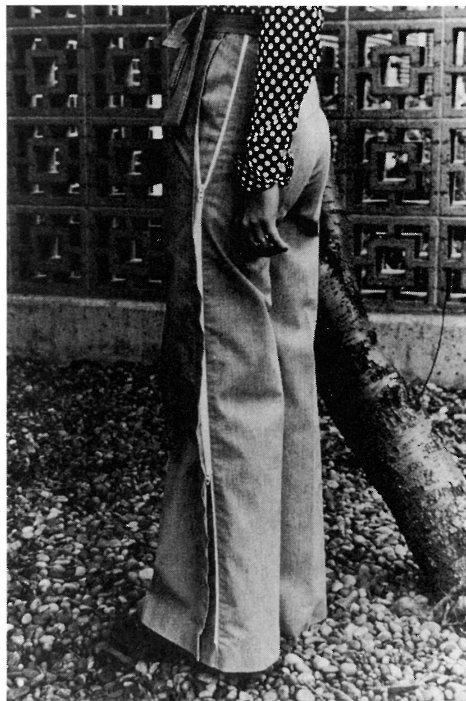


写真6 スラックスの脇線をファスナー明きにする。



ウエストの部分に弾力ゴム糸のパネルを取りつける。もし片方がずり落ちて、他のパネルが腰の回りや釦がけに止められているので、スラックスは、しっかりと固定されている。着脱もし易い。

写真7・8は、男性用または女性用のスラックスのウエストベルトを二重にし、両脇にファスナーをつける。前後の部分が別々にはずれるので、ファスナーをあけて、ベルトをはずしても図7と同じように全体が下に落ちることなく、同じ機能をもっている。このようにすると排尿の場合も非常に楽である。既製のスラックスを改良してもよいし、家庭でも容易に縫う事ができる。

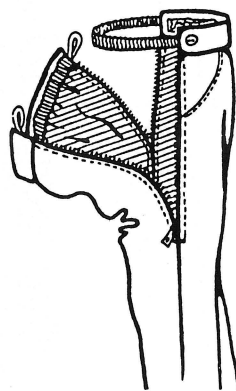


図8、写真9、車椅子を使用する人の中には、独りで椅子から立てない人もいます。前明きで後スカートの下の部分を切り取ったドレスであれば、服の着脱のために立つ必要がなく、椅子に坐ったまま、身体にまよってとめるだけですむ。また、後スカートを切り取ると、布地が重なった上に坐ることもなくなる。失禁の多い人でも下着だけ取りかえればよいので適切なスタイルといえる。

写真7 ウエストベルトを二重にし両脇にファスナーをつける。



写真8 写真7の後スラックス



図8 後部分を切取ったスカート

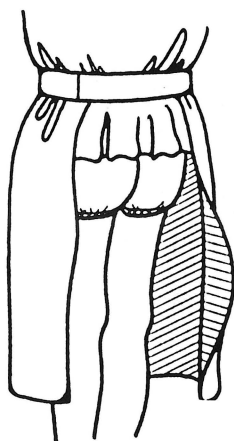


写真9 後部分を切り取ったドレス



写真10 指先の分かれた靴下

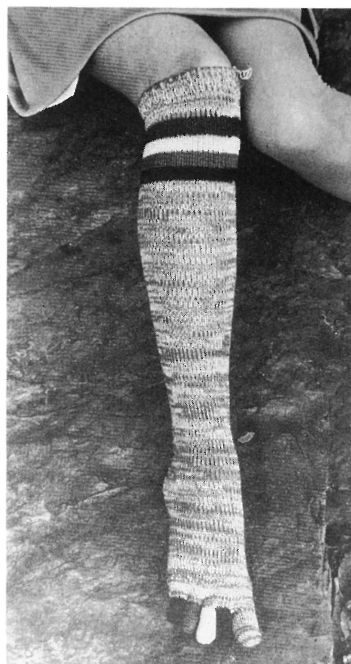


写真10、指の分かれた靴下、これは一時流行したもので指によって色を変えて編むと見た目にも楽しい靴下である。手の不自由な人にとって、非常に重宝なもの、足の指先で、道具を持っ

たり、字を書いたり、絵を描いたりできるからである。

2) cocoon (防寒用足入れつきひざかけ)の試作

cocoon の語源はカイコなどの繭のことで、下肢をまゆのようにくるむ防寒衣料をこのように呼称している。最近のファッション・ショーでもコクーン型のシルエットの服が登場しているが、研修会では、車椅子を使用する人の防寒用足入れつきひざかけとして説明があり、資料の中にその製作過程が記載されていたので試作を行ってみた。

写真11 Cocoon (防寒用足入れつきひざかけ)の試作品

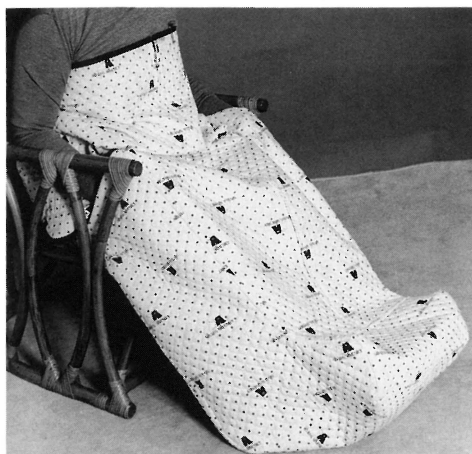
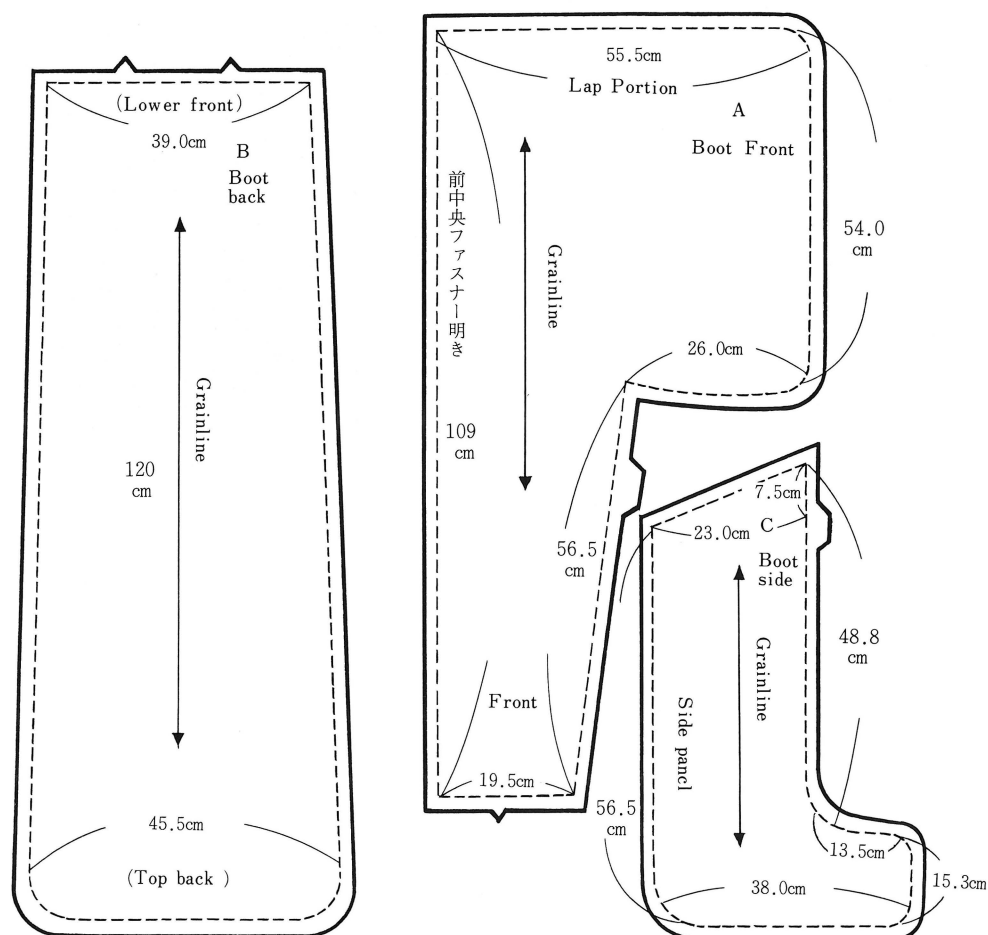


図9 Cocoon (防寒用足入れつきひざかけ)のPattern



布地は綿100%の白黒のキルト生地を4.4メートル使用し、裏なしで縫代はすべて黒の綿テープでくるみ、仕上げてある。(写真11)

図9, は cocoon の pattern である。lower, front はつま先の部分にあたり、靴をはいて着装する場合も考えて、その部分だけ布を二重にしたり、ボア（人工毛皮）などを貼って保温をかねて補強する事もある。

実際に着装してみると、下肢全体が非常に暖かく、しかも軽くて冬期、車椅子で外出する場合など、最適な防寒衣料といえよう。(図10)

写真12は、研修会時に公開され説明のあった cocoon で、写真11と同じスタイルであるが、

図10 車椅子使用のCocoon



写真12 Cocoon ポケット付実物資料



前に大きなポケットをつけ、手が冷えないように配慮してある。

3) 札幌市の特殊衣料（介護用品専門店より）

札幌市の障害者向け特殊衣料は、前述したように販売店の数も限られ、その調査範囲も非常にせまく種類も少ないが、その中から3点程紹介する。

(1) 改良パジャマ

男女兼用型で関節の硬直した人、ギブス装着の必要な人に向くパジャマ、ズボンの両脇と、ラグラン袖の衿ぐりから袖口にかけて、全開ファスナーによって明けられ、着脱が便利である。材質は綿100% (写真13)

(2) 食事用エプロン

大きなポケット（カンガルーポケット）が、食べこぼしを受け、その後の処理も楽である。カバーする範囲の広い大型エプロンで、ベットや布団を汚さず食事ができる。サイズは58 cm

×86 cm。材質はポリエステル100% (写真14)

(3) すべり止めつき靴下

ソックスの裏側にすべり止め加工がほどこしてある保温性のたかい靴下。材質は毛50%, アクリル50%, (写真15)

写真13 改良パジャマ

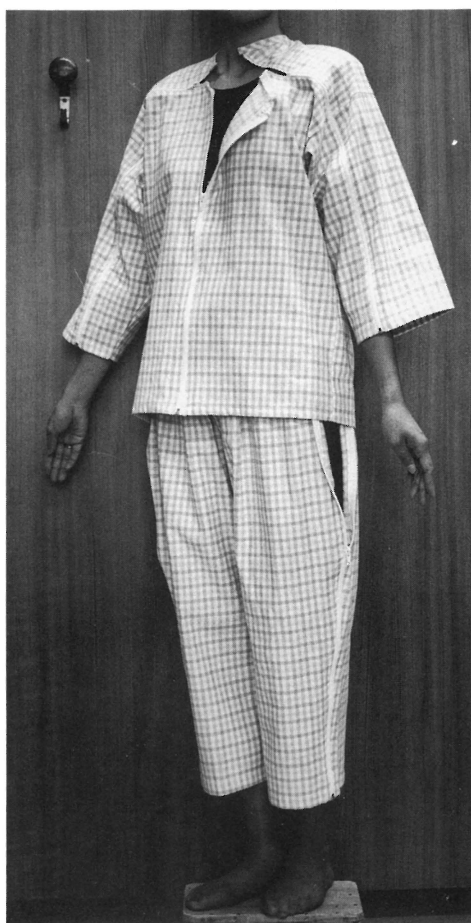


写真14 食事用エプロンカンガルーポケットつき



写真15 すべり止めつき靴下



IV お わ り に

身体障害者のための衣服を、参考資料にもとづいて述べてきたが、全般を通して基本的な配慮として、次の3つの留意点がみられた。

一点目は機能面からみて、着脱、更衣しやすいように「あき」を多くする事である。衿ぐり、袖付線、脇線など、「あき」の部分が多くして開閉を容易にする。「あき」には、マジックテープ、ファスナーの使用が殆どで、釦、スナップはさける。ファスナーあきの場合はファスナー先のつまみの部分に大き目のリングやループを取っけ操作しやすいようにする。

次に素材は伸縮性のあるもの（ジャージー・ニット）洗濯の効くもの（木綿・ポリエステル）保温性のあるもの（毛織物・アクリル）などが考慮されている。健常者は勿論であるが、障害をもつ人達にとって、日常の動作に無理のかからぬような素材の選択が大切である。

3点目の色、柄については、心理的な面の影響を考えて、明るい色、派手でなく落ちついた色、柄で、実用面ばかりでなく、着ていて楽しいものが適当ではないか。

従³⁾って着心地の良さ、ファッション性、着脱の便利さ等を考慮して、その衣服を着る事によって、その人の幸せと社会参加につながるという、意識と自信をもたせる事が、基本的に最も大切な事として考えられている。

以上、ミネソタ大学家政学部衣服研修に参加して、身体に障害をもつ人、ねたきり老人、病人を含めて、身体にハンディをもつ人のための衣服に接し、深い関心をもつ事が出来た。我が国でも、この分野の研究、発表は一部では行なわれているようであるが、もっと積極的な取り組みがのぞましい。特に北国のきびしい冬を過ごす本道においては、障害者のための防寒着や日常着の研究、改良をすすめる必要性があろう。

また、身体障害者の衣服は、高齢者の衣服と共通する部分があり、近い将来の高齢化社会に備える事からいっても、今後は、福祉先進国家にみられるこの領域の衣服開発を参考にして、我が国でも機能的にも、心理的にも着心地のよい、障害に応じた衣服の試作、研究が、重要な課題ではないかと思われる。

引用・参考文献

- 1) 川本栄子, 上島雅子: 肢体機能障害者の衣服について 衣生活 38巻 1989
- 2) まなべさわやかセンター札幌 介護用品専門店
- 3) Anna Kernaleguen : Clthing Designs for the Handicapped
- 4) Clothing for people with physicall Handicaps, North central Regional Extension pubication
- 101
- 5) 福祉ガイド 90, 札幌市民生局福祉部障害福祉課
- 6) 岩崎房子: 第16回国際家政学会ミネアポリス会議報告 日本家政学会誌 第39巻 12号 1988